

消防用ヘリの 機体構造観察

中日本航空専門学校生

関市迫間の中日本航空専門学校で22日、東京消防庁のヘリコプターの機体展示が行われ、航空整備科二等航空整備士コースの1、3年生56人が実際に使われている機体の構造や訓練を見学した。

同庁の職員採用活動の一環として打診があり、初めて実現した。学生らは災害時などに出勤するヘリコプター「ちどり」の着陸の様子や、構造に興味深く観察し、要救助者に見立てた人形を救出する訓練を見学した。同校によると「ちどり」は、標高の高い現場や災害救助に多く使われている機体だという。

ヘリコプターの構造に興味深く観察する学生＝関市迫間、中日本航空専門学校



2年生の久家千智さん(22)は「飛んでいる機体を間近で見られる貴重な機会になった」と話した。

卒業生でもある北郷享司操縦士(56)は「整備の学校の知識が今の仕事に役立っている。少しでも学生に興味を持ってもらえたら」と話した。(榊原あやな)